

日本記者クラブ会報

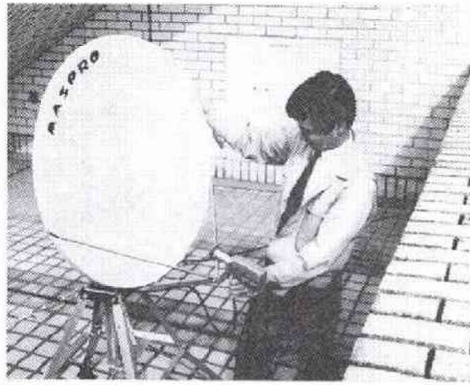
第210号
1987年
8月10日発行

東京都千代田区内幸町二ノ二ノ一
日本プレスセンタービル 100
◎ 社団法人 日本記者クラブ
電話五〇三一二七二二(代)

クラブにもニューメディア登場

衛星放送と日経テレコン

施設運営委員会の審議を経て、七月半ばからクラブ内に、NHKの衛星放送と日経のデータベースの受信端末が設置され、時代の先端を行くニューメディアを直接利用できるようになった。導入にあたって多大な



パラボラ・アンテナは9階西側テラスに設置した

便宜をおはかりいただいた日本放送協会、日本経済新聞社および日本プレスセンターの担当の皆さまに、会報の紙面を借りて心からお礼を申し上げます。

NHKの衛星放送は、機器調達の都合上、まず九階ロビー中央の既存テレビのチャンネル操作で見られるようにし、専用テレビの到着を待つてロビーのレイアウトを変え、別々に見られるようにした。

日経のデータベースは、幾つかのパッケージの中の「ニューステレコン」と呼ばれているもので、ニュース速報や各紙の記事、それに百科事典や人名・社名録の関心事項など、多くの情報が検索できる。端末機器

は八階事務局の受付に設置し、まず事務局員が操作に習熟し運用細目を決めたいうえで、本格利用に移りたいと考えている。

衛星放送にせよデータベースにせよ、当クラブにとっては初めてである。使い勝手やレイアウトについていろいろご希望、ご意見が出てこよう。別のニューメディアについての話も一、二ある。時代の歩みに合わせ、おいおいに充実、改善をはかっていきたい。

毎回大入りの「日米関係」

例年に比べて今年は、国・公賓のクラブ来訪が少ない。政府が内外とも多事多端で、招待を先に延ばしているためという。六月末のヤルゼルスキ・ポーランド国家評議会議長が最初(新井理事長司会の昼食会)、七月中旬のジュネジュ・パキスタン首相が二人目(中江副理事長司会の記者会見)で、このあともいまのこ

ろ目立った予定はない。

それにひきかえ「日米関係」シリーズは、七月がコンサルタントの大前研一氏、山本正日本国際交流センター理事長、八月に入ってロンピア大学のカーチス教授を迎え、ここまでですでに回を重ねること九回に及ぶ。

七月末には、クラブ会員の佐野毎日外信部長を講師に訪ソ報告会が開かれた。これはロングランのソ連研究シリーズの一環で、十五回目。

これらのシリーズと並行して、企画委員会では新たに「土地問題」シリーズを計画中である。またポスト中曽根を狙う有力者を順次招いて政策を聞く準備も進めている。

このほか、ここ一か月ほどの間に囲碁の会、ゴルフ夏のコンペ、グルメの会(三四日)、映画試写会(うち一回はお子さん、お孫さん連れのアニメ観賞)などを開いた。

さて、暑い夏がめぐってきた。ラウンジ、バー、レストランなど、いづれも通常どおり開くが、会員の皆さんにはくれぐれも健康にご注意を。

(事務局長 下田 進一)

とっておきの話

慎重居士「外相

日韓へ踏み切る



楓 元 夫

日韓国交正常化は長い難交渉の

末、昭和四十二年二月、佐藤内閣の時妥結した。だが、その裏には

李承晩政権以来、こじれにこじ

れ乱れた糸を解きほぐし、国交樹

立交渉へと軌道に乗せたのは、池

田内閣、とりわけ大平正芳（官房

長官のち外相）の功績だろう。

大平氏は「寛容と忍耐」の池田

低姿勢内閣を演出した慎重居士。

安保騒動の「政治時代」から所得

倍増の「経済時代」へと迂回作戦

をとったご本人が、政治的緊張の

再燃を覚悟して「日韓打開」へハラ

を固めるには池田首相の強い要求

（伊藤昌哉元秘書官著「池田勇人」

ではケネディ米大統領から強い示

唆）のほか、いろいろなことがあ

っただろう。この「秘話」も、お

そらくその一コマだ。

宏池会からの電話

昭和三十八年二月のある寒い日

だった。宏池会（池田派）の田村

敏雄事務局長から「折り入って話

がしたい」との電話だった。

田村氏は大蔵省から満洲国へ出

向した人で、私が早稲田大学を卒

業する前に学んだ満洲建国大学

（五族協和をめざした同国最高学

府）で教鞭をとったことがある。

池田首相の信頼があつく、大平外

相とも親交があった。

実は田村氏とは以前にも秘話め

く関わり方があった。李承晩政権

が学生デモで倒れ張勉民主党内閣

が成立した直後、建大時代の同窓

の金永祿（金永善蔵相の甥、当時

財政部高官）が、ひそかに日本の

緊急経済援助を求めて来たとき、

同窓の岩井利夫（毎日新聞）小林金三（道新）らとともに大平官房長官（当時）など関係者に紹介してもらったことがあった。

ともあれ宏池会に顔を

出すと、田村氏は田中六助氏（当時落選中、のち幹事長、私とは早

大同期）とヒソヒソ話をしてい

た。私の顔を見て、六さんが気を

きかして退席した。田村氏はあら

たまった顔で、「キミは建大出身

だから韓国の有力者に知り合いが

多いだろう……」と話を切り出し

た。

「実は金鐘泌（首相）など韓国

側からいろいろ言ってくるが、向

こうの様子がサッパリわからぬの

で大平が困っている。キミ新聞記

者の自由な立場から韓国の実情を

よく見て来てほしいんだ……」と。

当時、私は中日新聞のアジア問

題担当論説委員。宏池会で毎週開

かれていた桑原寿二氏（中国問題

研究家）らの研究会にも顔を出し

ていた。いろいろ聞いているうち

に、この案は大平氏と二人の案だが、経費その他一切が新聞社負担の特派員、大平氏も外務省も一切関係なしの「秘密」にしてほしいというのである。田村氏は「ただ、大野さん（伴睦、当時自民党副総裁）の親書だけは持っていてもらう」と言い添えた。

朴議長あての親書

ずいぶん虫の良い話だし、ジャ

ーナリストとして政府のお先棒か

つぎはどうかと、思った。が、隣

国の実情をつかみ日韓関係の正し

いあり方を論ずるのは重要だ。ま

た異民族の若者同士、六年間も同

じカマのメシを食った経験から両

民族の和解と友好への道を開く

も、特異な経歴の私に与えられた

宿命かもしれぬ。そう思っ上り

の小山武夫論説主幹に相談した。

当時、中日新聞は三社（道新、

西日本）と共同で韓国に特派員を

出しており（その年は西日本）、提

携先の東京新聞はソウル支局をも

っていた。とくに論説委員を派遣

する必要はない——というのが当

初の上層部の意見だった。が、私の熱意で「海外を取材して論説を書くのも良からう」と、短期出張の許可が出た。

大野副総裁は「大平君から聞いている」と、すぐ朴正熙最高会議議長宛の親書を書いてくれた。ところが、どういわけか入国査証がなかなか出なかった。学生時代、同室で起居した方熙(当時准将、国防相補佐官、のち日韓会談で公使として活躍)に手紙を書いて側面的援助と助言を求め、やっとならしたのが五月一日だった。ソウルについては万事が順調に進展した。大野親書を朴議長(のち中央情報部KCIA部長)に手渡し長時間、単独で懇談、その一部を会見記事とした。

彼は——民政移管は予定通り行う。日韓会談は革命政権の手で解決できる。野党側は十三人の共同声明で日韓会談反対を唱えているが、本心では革命政権での解決を望んでいる——など自信満々だった。そこで「新聞記者のカンだが、

日本政府は日韓会談で踏んぎりがつかず迷っているらしい。」とお話し、外人記者と単独会見をしたことはないという朴議長、金溶植外相との特別会見を依頼して辞去した。

その夜、方君の手配で同窓の歓迎会があった。参謀総長の関根植大将(朝鮮戦争で国連軍が洛東江橋頭堡に封じ込められていた時、夜襲で反撃の突破口を開いたことで有名)は、急用で欠席したが、安光鎬(准将、のち駐仏大使)、朴重潤(陸士校長)、俞英濬(大学教授、のち国会議員)、金鐘喆(大学教授、文博)、韓洪洙(韓国銀行常務、のち頭取)はじめ、各界の有力同窓が参集、私の取材に側面的援助を約束してくれた。

大平さんが「サンキュー」

おかげでわずか三週間の滞在中、各界要人の約五十名と懇談できた。とくに外国人記者との単独会見は初めてという金溶植外相との特別会見が実現。軍事革命推進の佐官クラス、車均禧経済企画院

副院長はじめ実務閣僚とジックリ話しが出来た。野党指導者では尹潑善前大統領、許政元首相、李範奭(李承晩時代の首相)、民間では三星財閥の総帥の李秉喆、農業専門家の朱FAO代表、李大韓セメント会長、在韓米国筋では、アームストロング大使館書記官、ワグナー・ハーバード大学教授などから率直な意見を聞いた。

李秉喆氏のごときは「一人当たりGNPを七〇ドルから一七〇ドル程度に引き上げねば政治的安定は望めぬ。そのため日本から六億ドル程度の借款が欲しい(ちなみに日韓妥結の有、無償経済協力は五億ドル)」と具体的要求すら出した。

総じて、日韓会談反対——学生デモ、クーデターなど、政治過多、現象には、経済建設、仕事づくりなど……、政治から国民の目を引き離すのが先決という結論が出た。

帰国後、私は朴軍事政権は韓国の現状ではやむを得ぬ、必要悪で、日韓交渉に十分こたえられる

——と報告した。

外務大臣室で長い、具体的な視察談を聞いていた大平氏は「ご苦労さん。どうやらハラも決まりそうだ……サンキュー」と、最後は英語で何やらコトワザめいた言葉をつぶやいた。のち帰国報告の一部が宏池会調査資料五十三号「見えてきた韓国」として刊行された。

ところで後日談。大野副総裁が怒っているというので行くと、「オレの親書を持って行って、オレの友人の悪口を書くとは……」と怒鳴られた。当時、銀座のM一家で有名な韓国籍の男や見玉普士夫の系統の男たちの利権あさりに触れた、私の情報を指している。私は、記事にならなかつたのを幸いとほめた。すると副総裁は「これは何だ」とKCIAの検閲した電文のコピーを出すのだった。

かえで もとお氏略歴 大正十一年岐阜県出身。漢州建國大学、早稲田大学政経学部卒。昭和二十一年中日新聞入社。東京政治部、東京在勤論説委員、東京新聞論説主幹などを務め、現在、客員。政治評論家。

東京

七月一日夕、東京港区の東芝ビルで行われた緊急記者会見で、佐波正一会長が「渡里杉一郎社長と辞任する」と切り出したとき、私は唐突にも五年前の秋の三越の岡田茂社長退任劇のときの光景を思い出した。会見した小山五郎三井銀行相談役が岡田社長の発言について問われ「なぜだ」と言いました」と説明して話題となったあのときのことである。

事件の深淵考える

同じ三井グループとはいへ、二つの退任の事情は異なる。言うまでもなく、佐波、渡里氏は自ら勇退したのであり、岡田氏は辞めさせられたのだ。しかし二つの事件をま

ない日はあっても、「東芝」が報じられない日はないというほどの報道合戦が演じられている。夜は東芝のトップ邸へ連日、社旗をひるがえした報道陣の車が押しかけている。このホットな取材活動を通じて特筆すべきは、新社長になった青井舒一氏の落ち着きぶりである。あのいかつい顔で、歩くときも左四十五度に視線を落として足を運ぶ青井さんに、私は故大平

摘された安全保障に対する配慮の乏しきは別として、いざ事件が起きたときの企業としての対応、そして政府としての対米折衝——などはどうもギクシャクしている。例えば会長、社長の辞任という重大な決定をもっとPRできるような準備をどうして進めていなかったのか。七月一日以来、にわか評論家が「日本と米国の企業風土は違う。二人の辞任はむしろ逆効果」などとしゃべっているが、そんなことは辞める前から分かっていたはず。それでも辞めたところに日本企業である東芝の苦しみがあったのだらうが、危機管理への意識が希薄であつたため、対応が後手後手に回っている。

渡辺良行

政府も同様だ。対米外交における政府の哲学のなさはいさば指摘されるところだが、今回も外為法改正をめぐる通産、外務、大蔵三省の確執、そして田村通産相訪米をめぐるトラブル（予定の繰り下げ）、さらにソ連原潜スタリナー音と東芝機械のNC工作機の因果

関係をめぐる見解の不一致など、醜態をさらけ出した。これも背景には国家としての危機管理に対する準備不足がある。

東芝トップ退任

のあたりで取材した私にとって、いずれもトップの退任が状況を大きく変えたと断言することができない。当日佐波会長の辞任を予測できなかった不明を恥じつつも、東芝機械事件が新たな展開を始めるという予感を胸に、私はデスク席へ「一面トップです」と報告したのである。

あれから約一か月、新聞、テレビに中曽根首相の動きが報じられ

首相に対して抱いたのと同じ感情を持つ。戦争で部隊が危機に瀕したとき、それを克服できるかどうかは指揮官次第だという。東芝はいまこの局面での最適任のリーダーをトップに据えているように思う。

ただ、今回の事件を中間的に総括すると、わが国の国家、企業には危機管理の体制が備わっていないようにみえる。米国から再三指



挨拶する青井新社長（7・1）写真 毎日新聞

わたなべ よしゆき 一九七〇年毎日新聞入社
福島支局を経て七四年から経済部 五月から経団連担当

ココム違反

ワシントンで経済を担当していると、米政府や議会が日本に対してきつい言動をとるたびに、翌日の紙面の派手な扱いを期待して、つい、うれしそうな顔をする被虐趣味が身についてくるのだが、東芝機械の対共産圏輸出統制委員会（ココム）違反事件の取材には、いつも、「いやな感じ」が残る。事件の広がり、結局、ココム強化につながり、それが日本の国民の利益に沿うとは到底思えないからだ。

こういふ「安全保障音痴」の「国益記者」という性（さが）を背負っているためだろう。東芝事件がこれだけの大事件になるとは思わなかった。米下院のハンター議員が東芝制裁法案を提出した四月末の段階でも、「一部タカ派議員のはね上がりで、大きな問題になるはずがない」と、タカをくくっていた。

しかし、この頃から議会の関心は次第に強まってきたのも事実で、議会のスタッフから「東芝機械への強制捜査の新聞記事がほしい」といった電話もかかり始めた。

ワシントン

単なる「日本叩き」ではない、と反省したのは、米通商代表部（USTR）の人と会ったときのこと。東芝事件に話題を向けて、上院にも制裁案が出そうだという話をしたときに、相手は、「ぼかされたことだ」と強い調子で言った。議会のことだろうと思つて、うなづきながら話を聞いたら、ぼかげていたのは東芝機械の方だった。商務省の人に会ったときも、「ま

国益記者の性？

高成田

さか、今度も日本はヒガイシャと言うのではないだろうね。ソ連の潜水艦は、日本の回りをうろうろしているのですよ。米国だけではなく、日本の安全の問題でしょう」と迫られた。

次第に、米国の政府や議会の多くの人がこの問題に対して本気で怒っていること、議会はその処罰を一生懸命考えているのに対して、政府はその補償（技術協力や

防衛負担など広い意味で）を考えている、という違いがあることなどが分かってきた。また、どちらも日本に対して安全保障という観点を踏まえて商売をするよう求めていることもはっきりしてきた。

田村通産相の訪米時に、外為法改正による再発防止を訴えた同相に対して、「不十分」と批判した議員も多く、議論がかみ合わなかった印象を残したが、これも、「も

亨

はっきりしてくる。

今後、制裁問題や技術協力、防衛負担などと並行して、同盟関係にある日米共通の安全保障という枠組みで、日本の対共産圏貿易を見直そうという動き、さらには米国の安全保障という観点から、日本の輸入や投資を抑制しようという動きが、米国内から強まりそう

だ。

武器以外は、何でも、どこにで

も売るといふ日本の商売哲学は、これまで、まともな「安全保障」と論争したことがない。米国は、日本の経済哲学の弱点を見た、と思う。

取材する側としては、「ココムの限定強化を歯止めにして、全方位貿易による日本の安全保障を確立できないか」などどこどわりながら、動きを追おうと思つている。が、こだわるだけでは、「安全保障に強い」「国際記者」にはなれず、いやな感じもつきそう



ロープを持ち出し抗議する米議員 写真 WWP

たかひりた とおる 一九七一年朝日新聞入社
山形支局 経済部などを経て今年一月外報部へ
三月からアメリカ総局

ソウル激動余録

ワーキングプレス

ソウル支局にとっては嵐のよう
な一か月、その余韻も去って思い
出もさまざまである。「取材も大
変だったでしょう」と慰労の声も
かけられるが、一番大変だったの
は実はガスマスクの入手だった。
この二、三年うち続く学生デモ
で、支局にも三つばかりは備え付
けがあったのだが、今回一時に十
人余りの応援を受け、市中を捜し
まわったがどこも品薄、結局、全員
にはいきわたらなかつた。外
国人特派員が二百人を越えた
というから仕方がないが、値
段の方も日本円で一個二万円
と、以前の二、三倍にはあ上
つたのにはあきれてしまっ
た。ガスマスクの割りあてのない
取材クルーは、オートバイ用のメ
ガネか競泳用ゴーグルに白いマス
クといういでたちで街に出て行っ
た。それもないグループは、デモ
学生をまねてサララップを顔に
はりつけて頑張ってくれた。

ミと鼻水だけで、レポートどころ
ではない。こればかりは、ほとん
ど免疫とさえ思えるくらい平気の
平座の学生達がうらやましく思っ
たものだが、今は後遺症が残らな
いものかと彼らが心配である。
ガスには悩まされたがやりやす
かつたこともある。

ソウルのテレビ各社はVTRを
日本に送る場合、通関のための便
宜供与^レということ、すべての

二百人を越えた特派員

五十嵐 公利

民主化は大いに歓迎できるもので
あった。
こうした点にも増して、この期
間最も鮮烈な印象を受けたのは、
なんとといっても、六月二十九日の
与党民主正党の盧泰愚代表委員の演
説だった。野党の民主化要求をそ
っくりそのまま受け入れた予想外
の大胆な内容をはじめ、民主化を
みつめる国際的な目への気配り、
それにまた一段高いところから教
訓を垂れるといった演説
の多い中で、初めて一般
国民と同じレベルに立っ
て話しかける、といった
姿勢もうかがえるものだ
ったからだ。支局の若い
記者も「感激した」と、本当に感
にたえない表情でテレビをみつめ
ていたし、金大中、金泳三の両金
氏も、批判を忘れて歓迎声明を出
してしまいうほどだった。

何といっても民主化、それも普通
の民主主義を求める国民の意思が
最大のポイントだったわけだが、
もう一つ、そうした声が初めて大
統領に届いたからという証言もあ
る。政治にも深く関与する情報機
関が、大統領にあげる情報も統制
し、大統領自身、今回、金泳三氏
ら各界人士達と直接対話すること
で、初めて事態の深刻さを悟った
というのである。

軍の出動に、ギリギリの瞬間に
ブレーキをかけたアメリカの役割
も、今回のドラマでは重いものだ
った。

さて年末の大統領選挙までだ
が、「一山も二山もある」（金鍾
泌元首相）というように、事態は
なお曲折があるだろう。金大中氏
の赦免復権にせよ、政権内に合意
があったのかどうか疑問が残る。
それでもなお、盧氏の民主化宣言
で大きな曲がり角を曲がってしま
った今、この流れをもっともどす
のは、どんな力をもってしても相
当難しいのは確かである。

いからしきみとし 一九六八年NHK入社 政
治部 外信部を経て 八四年十月からソウル特派
員

地価高騰を追う

ワーキングプレス

「地価の異常な高騰のなか、金銭欲による犯行であり、地上げに絡む不法行為が相次ぐ危険な風潮には厳正に対処する必要がある」

東京地裁の浜井一夫裁判官は七月二十一日、賃借人を立ち退かせためパワーショベルで住宅を壊した、不動産業者ら三人に懲役六ヶ月八月の実刑判決を言い渡した。

「地上げ」そのものは都市の再開発に欠かせない作業過程で、「善良な業者まで変な目でみられるので困っている」（不動産業者）という声を何度も聞いたが、元凶々はこの判決にあるような悪質な「地上げ屋」である。

警視庁など捜査当局は、地価高騰による甘い汁を吸おうとする暴力団らに対し、民事絡みの事件にも積極的に取り組む姿勢をみせ、この四月には地価つり上げの元凶ともいわれた「最上恒産」（早坂太吉会長）を、異例の国土法違反容疑で強制捜査に乗り出しているが、地上げ屋の悪業はその後も枚挙にいとまがない。当初は脅迫まがいであった手口

も、ここ一年の間にエスカレーター。六月十五日未明には、東京・新宿区の左門町で、右翼幹部ら三人が立ち退きに応じないクリーニング店にトラックを突っ込ませる事件が発生。同じ月に、昨年十一月に杉並区で民家が放火された事件も、立ち退きをめぐる放火だったことがわかり、主犯の暴力団組長らが逮捕された。「最上」は警視庁生活経済課、「トラック」は

おどされた同僚記者も

大塚

捜査四課、「放火」は捜査二課と、各課フル回転。その犯行手口の多様さを裏付ける結果になっている。

私たち警視庁担当記者も地上げ屋が絡む事件を最重要取材対象のひとつとしてとらえ、表面に現われた現象だけでなく、その「黒いビジネス」の実態にメスを入れるべく取材活動を続けている。幸い、私の場合はまだ取材中に危い場面に出くわしていないが、

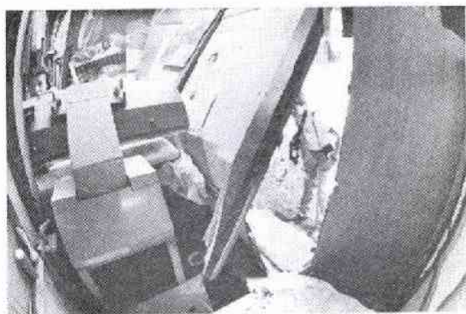
やはり地上げがらみの事件を追っている同僚記者の一人は、関係者からの聞き込みのさい、暴力団風の男に「兄ちゃん、あんまりやり過ぎるとコワイことになるで」とすざませたし、別の記者は夜回りでつかんできた事件対象の地上げ業者を割り出すのに丸一日費し、「いやあ、電話帳にも載っていない幽霊業者なので大変でしたよ」と、額の汗をぬぐっていた。

誠

そんな取材の中で、都心の各法務局登記所が、地価狂乱々にもなる相次ぐ土地売買手続きで連日ごった返していることがわかり、ひとつの社会現象として早速署名入りの記事にし、「いつから遊軍記者になったの」なんてひやかされたことも。ともあれ、取材を通じて常に感じるのは、当局による摘発が地価抑制にどれだけの効果を及ぼしているのか、という点だ。「いくら表面ばかりを取り締まってもね。（地上げ屋の）手口がますます巧妙になっていくだけのこと」（都内の不動産業者）。こんな声を聞くたび

に非難されるべきは、こうした業者へ融資を続ける金融業界ではないだろうかと考えてしまう。

そんな中で中央信託銀行幹部による土地転がし事件が発覚し、全国銀行協会連合会と生命保険協会は七月二十一日、「投機的な土地取引については厳正なチェックをし、融資を行わない」ことを申し合わせた。やっと重い腰をあげたとしても、私たちが新聞記者の報道が原動力になり、世論が高まった結果だとすれば、不幸中の幸いである。



トラックを突っ込まれたクリーニング店
写真 サンエイ新聞

おおつか まこと 一九八二年サンエイ新聞入社
静岡支部を経て八六年から社会部 現在警視庁捜査二・四課担当

クラブゲスト

大前 研一 マッキンゼー東京支社長



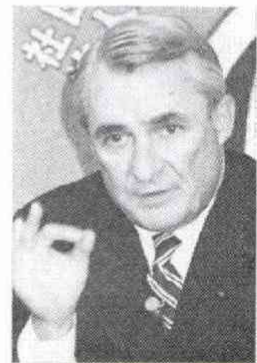
「日本が米
国に対しては
つきりモノを
言う能力や、
あるいはそう
いうことをや
ろうとする仕
掛けがほとんどないので、このまま
では日米関係はよくならない。中曾
根首相をしてもこれだけ悪くなつて
いるわけなので、ニューリーダーの
方々を見ていると、それ以上のこと
が出来そうな人は、私にはすぐには
見つからない」

世界中に二五〇人のパートナーと
約二、〇〇〇人のスタッフがいます。
そこから情報が入ってくる。「日本
との関係で困ったことがあると相談
されるので、時として麻雀を後ろか
ら見ているような得がたい情報も」。
コンサルティングを通して、外国の
政治家や企業家の考えていること
を、インサイダーとして見聞する立
場にある。そこで得た考え方や見方
を躊躇のない形で発表し、人気が高
い。講演依頼は日に二〇件を超すほ
どあるそうだが、すべて断ってい
る。クラブへは特別出演。

「実態経済をみると、五〇〇〜六〇〇
億ドルと言われるような貿易不均衡に象
徴されるほど、日米の通商関係は一方的
でない。おカネとモノの相互依存関係は
かつてない良さで、日米のインターデペ
ンデンスを示している」。当然、関係が
深くなれば問題も生じる。しかし、日本
側には情報を探知し、国として対応を考
えるなり、場合によっては企業に対策を
構じさせるといったシステムがない。そ
れが問題だと言う。車でもテレビでも半
導体でも東芝機械でも、初期動作がなか
ったため事態を悪化させ、困難にしてし
まった、と指摘する。米国社会の特性を
前提にして、日本は対米コミュニケーション
を考へ、その方法、手段を日頃から構
築しておくべきだというだけなら当たり
前の話になるが、それを「忍び足の町人
国家」から「したたかな経済大国」へと
展開するあたりにも、大前人気への秘
密があるのかも。【七月七日（火） 研究会
司会 高野洋委員 出席 一六三人】

J・F・エイカーズ IBM会長
ケアリー（七七年）、オベル（八三年）
両氏に続いて、三人目の会長としてクラ
ブの会見にのぞんだ。

IBMは二年連続の減益、特に八六年
は前年に比して連結ベースの純利益が二
六・九%も下回った。巨人がかつて
経験したことのない逆境の中、昨年六月



取締役会長に（社長、CEO兼務）。切
り札なのであろう。日本IBMの創立
五〇周年に際して来日した。
会長は、四十分前に到着し、定刻二分
前に会見は始まった。日英の略歴も事前
に配布できるように準備し、冒頭発言も
通訳を入れて十分ならず。成田からの帰
国前一時間の会見だったが、質問のため
最大限の配慮をしてくれた。

日本IBMの人事（権名体制の継続確
認）、富士通との著作権問題（和解の可能
性否定）のほか、東芝コム違反、ジャ
パン・パッシングなど11問にテキパキと
答えた。日本のメーカーに脅威を感じて
いるか——との質問も出た。これには
「競争は脅威とは思っていない。元来、
我々一人一人は消費者。競争は製品をよ
くし、それは消費者にとって好ましいこ
と。IBMにとって競争相手は何千とあ
るが、中でも日本のメーカーはニフェク
ティブである。コンピューターメーカー
は、常に製品の改善を続けてこそ生き残
れる。その意味で競争は健全なもので

す」と。【七月二〇日（金） 記者会見 司会
友田瑞委員 通訳 佐藤敏子 出席 一四六人】
M・K・ジュネジョ バキスタン首相
「この二、三年の経済成長率は六%台
で、昨年のGDPは七%の成長、インフ
レ率は三・五%に低下した。国民一人当
たり所得も三七〇ドルで、途上国の中
の所得国への仲間入り一歩手前まできて
いる。国民の基本的権利は回復され、司
法も独立しており、プレスも自由も保障
されている」
八五年にハク大統領によって文民内閣
の首班に指名された。戒厳令を解除し、
イスラム主義と民主制度の確立に取り組
んでいる。昨年夏にトルコ、西独、米
国を、今春、英国、ベルギーを歴訪して
いる。
質問に答え次の点を明らかにした。①
核兵器開発はいまの پاکستانにとって
は道楽で、原子力の平和利用の研究
はするが、核を保有する意思はない。イ
ンドが署名するなら核拡散防止条約に署
名する。②アフガン駐留ソ連軍の撤退の



ク ラ ブ ゲ ス ト

ため、ソ連と直接話し合うなどの努力をしており、双方の主張の差は縮まってきている。③南アジア地域協力連合は地域の問題を効率よく話し合うため極めて有効なので、インドのより積極的な参加を期待したい。

軍事クーデターでブット文民政権を倒したハク政権は七月五日、十周年を祝った。政権発足二年後のソ連軍のアフガン侵入が、結果としてハク政権に「神風」となったといわれる。対ソ前線国の立場を利用して、西側から物心両面で支援を得てきた。

今後はソ連のアフガン撤退後に耐えられる国づくりが急務ということだろ。【七月一四日(火) 記者会見 司会 中江利忠副理事長 通訳 矢野智恵子 出席 六二人】

山本 正 日本国際交流センター理事長



下田会議、日米議員交流、三極通商会議等々を長年マネージしてきた。議論百出の最近の日米関係について、日本は大人になるべきだと主張する。ジュニアパートナーからイコール

パートナーへの変化の中で、日米経済のインテグレーションは進み、関係はより複雑で密接なものに。他方、双方とも国内がより多様化しまとまりが悪くなっている。恒常的にマサツが存在する日米摩擦時代だ、と言う。それをマネージするにはどうすればいいのか。「官僚は変革の触媒たり得ず、議員は圧力団体の影響下にある。外圧は依然有効だが代価が大きくなりすぎた」。

結局、経済一辺倒でないバリュエ・オリエンティッドな国際化の推進こそが緊要になる、と言う。政府だけではダメで、民間機関での交流がより重要になる。そして、日本人が感情論や自己中心主義を脱し、カネの切れ目が縁の切れ目にならないような価値や教養を国際的に体現していく努力をすべきで、それによって横メンだけの国際化を卒業しなければならぬ。一人間的な信頼のネットワークがないと、精度の高い情報交換は行われぬ。【七月一七日(金) 研究会 司会 浅井泰編委員 出席 五〇人】

R・ルクマン OPEC総会議長 ナイジェリアの石油エネルギー相でもある。昨年半ばには原油価格が一バレル一〇ドルを切ったが、ちょうどその頃OPEC議長に就任した。一昨年十二月の総会で、シェア回復のため増産政策を採ったが、それが結果的



に原油安を招いた。そこで昨年八月の臨時総会では価格引き上げ策に転じた。非OPEC産油国との協調をはかりながら、産油量の抑制に務め、十二月に一八ドルの固定価格(実施二月から)を決めた。先般の米戦艦によるクウェート・タンカー護衛などで価格が一時高騰したが、「一八ドルは不測の事態がなければ十二月まで維持する」と。しかし、今年前半のドル下落の影響を考慮して、十二月の総会では、十八ドルを見直し新価格を決める可能性があることを示唆した。

OPEC諸国が取り決め枠を超えて生産しているとの見方が絶えない。これに対しては「市場操作のため既得権益を持つところが流しているウワサだ」として、「六月の生産は五か国がクォーター以下、六か国が二、三%オーバードだった」とメモを読みあげた。しかし、原油の国際商品としての特殊性や加盟国それぞれの事情もあってか、OPECも毎月のキチンとした加盟国の産量を公表しているわけではない。そのためますます憶測や

伝聞の情報、価格決定に影響することになる。原油価格の安定を阻害している基本要因は、オイル・ビジネス自体の複雑怪奇さなのかもしれない。【七月一七日(金) 記者会見 司会 高野洋委員 通訳 長井陽子 出席 五〇人】

佐野 真 毎日新聞外信部長

六月に訪ソした時の取材ノートに時々目をやりながら、ベレストロイカ登場の背景、現状、行方を語る。「一九五六年、フルシチョフがスターリン批判を行った第二十回党大会当時、モスクワ大学で学んでいた世代が理論形成の核となっている」と。インテリのウケはいいが、改革路線への大衆の支持はもうひとつ。この辺に懸念が残るが、急ぎ足のゴ書記長はノーボエ・ムイスレーニエ(新しい思考)を掲げ、ベレストロイカを国際関係にも押し進め積極的に軍縮提案を。

いまや党大会前にはテレビで何が討議されるかも伝えられる。「ブレジネフ時代には敵寒のなか開催確認のため、車の台数を調べに行ったものだが、が、ソ連当局の発表や目を通さなくてはならない出版物も激増、「いまの特派員は大変ですよ」。【七月三〇日(木) 研究会 司会 久木保委員 出席 五二人】



“相互便宜供与”で使った ワシントンのプレスクラブ

小松原 久 夫

会員の皆さんは先刻ご承知だろうが、ワシントンのナショナル・プレスクラブと当クラブの間には、会員が相互に施設を自由に利用できる取り決めがある。私もさる五月に帰国するまでの四年間、ワシントン勤務中に時折プレスクラブを使わせてもらった。もともと、あまり大きな声ではいえないが、私の場合、ワシントン転勤と同時に、勤務先の方で私を退会にしまったので、私は当クラブの会員カードを不法に使用した。後で聞いた話だと、毎月何百円かの名目的な会費を払えば、転勤中でも会員資格を維持できる制度があるというから、これからアメリカ方面に転任予定の会員は、あらかじめそのような手続きをお取りになるようおすすめする。

私はアメリカの新聞協会（ANP

A）にオフィスを構えていたが、ANPAはワシントンの北側、バージニア州レストンにあり、プレスクラブの利用は、もっぱらワシントンで会食したり待ち合わせをしたりする場所として重宝した。たとえば日本新聞協会主催の日米記者交換で訪日する米人記者に、前に計画に参加したことのある記者をまじえて、昼食を兼ねて訪日の予備知識をさずけるといった具合だ。また、日本からのお客さんで、この際ぜひワシントンのプレスクラブで食事をしてみたいとご希望の向きを案内することもあった。

私の限られた経験でいえば、食事はお世辞にもうまいと思ったことはない。当クラブとの比較でいえば、あちらのはとにかくにも量は豊富である点があげられる。当クラブの

洋食は、私のように少食な人間でも物足りない。これが日ごろの不満。ただし、和食は常に立派なメニューで、安いし日比谷界隈では上品さにおいても他に例をみない、というのが小生の評価だ。値段の点でいえばワシントンのプレスクラブも安い。が、一般にあの程度に安い（昼食で十ドルちょっと）食事は、普通のレストランでもとれるというものはある。高くてよいからうまいものがご希望であれば、フランス料理が一番。たとえば、下町の十七丁目（プレスクラブは十四丁目）には、メゾン・ブラインシュがある。昼食で五十ドル余りだから、高いといっても東京のフランス料理屋の類ではない。プレスクラブは、ナショナル・プレスクラブの十三階にあり、中へ入ると中二階のような形になっていてそこにバーがある。バーには昼間から酒をくらっているアメリカ人記者たちが必ずいる。レストランの方はカードの提示を求められたが、バーに寄った時に提示させられた記憶がない。

昨今、プレスクラブは会員獲得のため、時折DM勧誘作戦を展開して

いるようで、私のところにも案内が来た。が、当クラブのカードが同程度に役立つわけだから、入会の意思は全くなかった。また同クラブは宴会場施設についてもセールスに力を入れていて。その話は新聞協会報の依頼で事務局長に取材した時に聞かされた。在ワシントンの日本特派員の間で目立つ利用は、新旧支局長交代のレセプションがプレスクラブの宴会場（たしか修正第一条ラウンジと称するところと記憶）で、私の在任中にもしばしば開かれた。最近の特徴は、寿司バーが設けられたことで、招かれたアメリカ人客も列をなすのを見かけた。いまや寿司は東京でもワシントンでも、欠かせぬパーティー・メニューとなったといつてよい。

あちらのネタは決して悪くない。日本からの輸入魚もあるようだが、マグロを含め現地のさしみ用鮮魚市場は、統一協会系がおさえているという話だった。

こまつばら ひさお 日本新聞協会総務部長 当クラブ施設運営委員 八三年四月から八七年五月まで日本新聞協会米国駐在代表を務めた

スタジオ訪問

山陽放送

「RSK特集」

映像重視の ドキュメンタリー

「君は国を守るのか？」

第13特科連隊の新兵たち」

「町是 苦田ダム前後」

「The Dashi」

「弘法大師の土木工学

さぬき水事情」

山陽放送のドキュメンタリー「RSK特集」が七月に放送したタイトルだ。専門編集長の徳光規郎さんがテーマを決め、担当ディレクターを選任する。基礎になるのは、半年に一度関係スタッフから募った企画案集。ノートは経済、農業、教育、福祉、文化など分野別に整理されている。中でも目をひくのは「瀬戸大橋」の項目がトップに置かれていること。本四架橋（児島・坂出）が地元にとって、どれだけ大きな事件なのかを端的に物語っている。

昭和五十七年、「瀬戸大橋時代を作る」という一時間番組を一年間続けた。翌年、ドキュメンタリータッチの情報番組がスタートした。二年間の放送を経て昨年四月、本格的なドキュメンタリー番組として「RSK特集」が登場した。この四月からは放送時間が三十分から四十五分になり、時間帯を土曜午後五時から火曜午後十時のゴールデンタイムへ移行した。

藤田正彦報道制作局長は、「特集」スタートについて、「編集中心の番組作りの経験から、制作能力に目安がつき、自信も深めました。また、スタッフの間から上がった本格的なドキュメンタリーをやりたい」という声も大きな要因でした」と言う。

問題の人員配置については、兼任制を採った。「編集長一人とディレクター二人が専任。他は、報道部と制作部との兼ねもちです」と言うのは糸島誠報道制作局長。兼任は苦勞も多いが利点もある。ひとつのテーマを長期間追っている、通常の取材にはね返ってくることもある。つまり、県政ネタを追っている時には、県庁クラブでの取材が緻密になる、といった具合だ。そこから特ダネが生まれることもある。冒頭にもある苦田ダム問題は、去年、町長辞職に発展した。その

直後、失踪中の町長との単独インタビューに成功した。その裏には、「特集」のため長期にフォーローしてきた積み重ねがあった。また、来年三月完成予定の新岡山空港の便数も、他局に先駆けて入手できた。谷本保夫報道部長は「夕方のローカルワイドと『特集』は車の両輪。二つが組み合ってこそ、それぞれ良いものができる」と兼任制のメリットを語る。

一回の放送に準備するVTRは約百本、三十時間余りになる。徳光さんが四日間くらいで、これを四十五分にまとめる。「まず、中核になる絵を見つけ、その部分を浮かびあがらせるようなもので肉付けをしていきます。ローカル局の取材力にはどうしても限界があります。それを補うのが編集です」

手本は映画だという。しっかりした構図を持つ短いカットの積み重ねがポイント。1/30秒単位の編集作業が、連日遅くまで続く。「手を抜こうと思えばいくらでも抜けるとし、手を入れようと思えばいくらでも入れられる。けれども、テレビの本質は映像です。新聞記者が一字一句を大切にするように、それぞれのカットを大切にしたい。そこに、テレビらしさが生まれてくる。ひとつひとつの絵をどれだけ大切にしているか、われわれは反省すべきだと思います」

この精神は取材にも反映する。県内で済むものでも、ベストの素材を求めて、スタッフは全国へ飛ぶ。統一地方選の土井委員長の演説シーンを撮るためには、自・社が最も力を入れた福岡の街頭にカメラを据えた。蓄産問題を追う時は、輸入牛が入荷する神戸港から、蓄産の本場・北海道までカメラを運ぶ。エリア内のテーマでも、取材は地元には縛られない。迫真性を追う取材陣と編集者の執念が、しっかりした骨格の番組をつくっている。岡山・香川は、電波法上はひとつという特殊な地域だ。民放五局とNHKが競っている。山陽放送は、他局にマネのできない「特集」を武器に、強い特色を打ち出そうとしている。

(河野 聡)



3台のモニターテレビをならみながらの編集作業（徳光編集長）

プロフィール

◇個人D会員

第147回企画委員会 (7・8 会見室)

司会をした委員からの行事報告の後、七、八月のゲスト選考とクラブ行事について意見を交換した。その結果、自民党総裁候補をクラブゲストに招き、政権構想と基本政策を聞くための昼食会を実現するよう折衝することを決定。また超電導と土地・地価問題の研究会を行うことにした。土地・地価問題は、シリーズ研究会として実施できるように、平田、広

瀬、鈴木の三委員で小委員会をつくり、具体案を検討することになった。

出席 細谷委員長。浅井、佐野、友田、広瀬、井上、佐藤、石丸、高野、久木、高阪、鈴木、平田、堤の各委員。

第40回施設運営委員会 (7・13 第2会議室)

日本放送協会、日本経済新聞社からの好意ある申し出を受けて、衛星放送専用受像機を9階のラウンジ内に、日経テレコン端末機を8階受付に設置することを

了承した。

六月(22〜26日)に行われたワインの試飲・即売の結果が事務局から報告された。

出席 犬養委員長。後藤、佐川、根津、和田、小松原、宮地、甲斐原、野田の各委員。

第83回会報委員会 (7・15 第1会議室)

七月号、記録版(6月29日発行)について意見交換ののち、八月号、九月号

の編集について協議した。

出席 深川委員長。三好、松井、東郷の各委員。

第119回会員資格委員会 (7・15 第2会議室)

八月一日付の会員入退会を審議し、理事会へ答申した。

出席 渡辺委員長。松下、小池、播谷、樋口、青木、亀垣の各委員。



▼世界の動き社から「日米外交三十年」を出された元駐米大使・外務次官東郷文彦氏が亡くなって二年たつが、近く、

ブータンの地に故東郷さんの分骨が行われることになった。

東郷さんとブータンの関係は昭和三十七年五月、当時カルカッタ総領事だった東郷さんが、ドルジ首相（後に暗殺される）に招かれて首都チンブーを、日本官吏として初めて訪問して以来。ブータンの風物をめだ東郷さんは「ヒマラヤの王国―ブータン」という写真集を自費出版し、また日本ブー

タン友好協会副会長としても両国関係の親善に当たった。外務次官時代の昭和五十年六月、ワンチュク現国王の即位式に参列している。

ブータンを愛した故人のために、いせ未亡人が分骨埋葬を申し入れたところ、皇太后から首都チンブー郊外に納骨地を選んだ旨の連絡がこのほど入ったという。未亡人には子息東郷茂彦会員（ワシントンポスト東京特派員）が同行し、九月中旬、現地入りする予定。

（松井 章 世界の動き社常務理事）
▼塚本哲也会員（元毎日論説委員・防衛大教授）の大作「ガンと戦った昭和史」―昨年度講談社ノンフィクション

○囲碁の会

猛暑の中、生ビールでのどをうるおしながら静かに始まった手談。七月の例会は二十五日、午後二時ごろから空模様は急変、首都圏を襲ったゲラリ雷雨の強烈パンチ。傘の心配をするよりも、「こうなりや、止むまでやるっきゃない」――碁キチの人生哲学に裏打ちされて総対局数は45局、参加21人。

成績優秀者は浅野道彦四段、本田路威二級、白井敏之四段、新井明四段。敢闘

賞は大日向一郎四段、森本孝六段、小野盛四郎初段の各氏でした。

八月は夏休みで、次回例会は九月二十日（土）午後一時から。

●ゴルフの会

丹羽会員が優勝

夏のゴルフ会（第四九回）は炎天下の七月二十九日、横浜カントリークラブ東西に三十三人が参加して開催された。優勝は最近進境著しい丹羽弘吉氏（ノル

賞受賞IIがテレビドラマ化され、十月五日夜「からたちの花、永遠に――」がレンスター総長の愛と戦い」としてテレビ東京から放映される。内容はガン放射線治療の権威で、自らもガンに倒れた元国立がんセンター総長塚本憲甫氏の半生をたどり、日本におけるガン制圧の歴史を描くもの。配役には、憲甫に片岡孝夫、妻年子に真野響子、一人娘ルリ子に黒木瞳、その夫哲也に平田満らが登場する。

（細島 泉 毎日新聞出身）

ウェー大使館）、NET六八で、第五回取り切り戦も掌中におさめた。

二位以下は次のとおり。
二位藤川宏氏NET六四（東京ニュース初参加）、三位福元夫氏NET七〇（中日OB）、BB太田博夫氏（朝日OB）、BG大田浩氏（TBS）グロス八五。

夏の会は例年途中NRが出ており、来年からは猛暑の時期を避けて開催することとした。

次回は十月二十三日（金）、都留カントリークラブで行われます。五十回を記念

二年分のファイルができます



クラブ会報専用のとび込みファイル（写真）があるのをご存知ですか。マンスリーの会報だけでしたら、二年分のファイルができます。会員の中には、記録版だけを別に資料用にしてファイルされている方もいらっしゃるようです。一冊六百円で、クラブ受付でお分けしています。ご利用ください。

して特製ネームプレートを作成し、配布する予定です。多数ご参加を。



取り切り戦も制覇したノルウェー大使館の丹羽さん

藤本有典さんを偲ぶ会



クラブ宴会場のダンス・フロアの切り込みの線のみながら、「これは藤本さんがとくに主張してできたものだけだ、それにしてはここで藤本さんが踊ったのをみた覚えはないな」と、ふと思った。七月二十四日夜、「藤本有典さんを偲ぶ会」の会場ではつきつきに「ゆうてんさん」の元の職場、同盟通信、時事通信の知人友人や、郷里・山口の学友たちが故人のいろいろな思い出を語っていた。「ゆうてんさん」の写真がみんなに笑顔を見せている。俵万智流にいうと、「追悼会はこの方がいい」といったからクラブ七月二十四

日はゆうてん記念日々の雰囲気。

小生がこの総務部長として藤本事務局長のもとで働いていたとき、藤本さんはよく「オレの葬式は無宗教。オレは葬式代だけ残してあとはみんな使ってしまったんだ。クラブで偲ぶ会でもやってくれりゃいい」と言っていた。藤本事務局長時代に、時事からの理事をずっと務めた小林淳宏さんと、下田現事務局長、それに帝国ホテル東館時代もよく知っている時事の宮川好伸さんが発起人となって開かれた会は、まさに「ゆうてんさん」の思いどおりの集いとなった。通夜・葬式は仏式だったから、これで「ゆうてんさん」も本望なはず。

百人近い人たちが集まった。渡辺誠毅元クラブ理事長（朝日・相談役）の心のこもったメッセージが披露された。生きたいだけ生きて、男冥利を羨しがられてあの世にいった「ゆうてんさん」は、先にいった前田雄二初代事務局長、笠置正明三代日事務局長、それにフロアマネジャーをしていた小林武雄、栗本実さんと、いまごろ楽しく水割りを一杯やっているのではないだろうか。

桂 敬一（日本新聞協会研究部長）

紹介 会合

- 1日▽矢田美英中央区長（元共同政治部記者）を励ます会（共同）松崎稔（会員）▽伊藤牧夫さんを送る会（朝日）岩垂弘（会員）▽「竹村健一の食卓外交」打ち上げ懇親会（朝日放）金田知（会員）
 - 2日▽千速晃さん（新日鉄取締役）を励ます会（読売）清水嘉健（会員）
 - 4日▽中日・東京新聞論説会議（中日）広瀬一郎（会員）▽日本エッセイストクラブ賞贈賞式「男の選択」金森久雄日本経済研究センター会長「ひとり旅一人芝居」渡辺美佐子ほかが受賞（殿木圭一（会員））
 - 6日▽現代セミナー例会「最近の中国事情」柴田穂サケイ論説委員長（楠田實（会員））
 - 9日▽松本克己さん（元東京新聞編集局長）を励ます会（中日）栗木欽一（会員）
 - 10日▽ASEAN記者研修計画参加者歓送会（協会）宝子山幸充（会員）
 - 11日▽林伸太郎さん（東京・論説委員）を囲む会（中日）辻通男（会員）▽中屋健一先生を偲ぶ会（川平朝清（会員））
 - 13日▽米長邦雄さんを囲む勉強会（日産）長谷川研一（会員）▽明日をみつめる日中懇話会（日経）新井明（会員）
 - 14日▽横浜博覧会報道打ち合わせ（岡並木（会員））
 - 16日▽「新聞広告論文・感想文」審査委員会（協会）権田萬治（会員）
 - 17日▽教
- 義新の会―東大教養学部新聞編集者の同人会（朝日）小田原教（会員）▽コリア評論三百号記念パーティー（東亜日報）金珠熙（会員）
- 18日▽整理部OB会（日経）船山庄一（会員）
 - 20日▽政治部OB会（日経）山岸一平（会員）
 - 21日▽崔書勉君（韓国研究院院長）の在日三〇年を祝う会（藤田義郎（会員））
 - 24日▽民放解説者研究会―羽田孜衆院議員（朝日放）岡村黎明（会員）▽朝鮮問題懇談会（共同）林雄一郎（会員）▽津田亮一さん（FM東京新社）おめでとう会（上田彦二（会員））
 - 27日▽八尋俊邦三井物産会長の受章を祝う会（三井物産）植松修一（会員）
 - 28日▽英文編集者会議（協会）田村進（会員）▽新聞航空懇談会（中日）佐藤毅（会員）▽民教協海外研修打ち合わせ会（テレビ朝日）今井虔一（会員）
 - 29日▽捕鯨問題論説委員説明会（IPR）梅崎義人（会員）▽政治座談会―羽田孜、宮下創平、清水勇、小沢貞孝ら長野県出身の衆議院議員（信毎）斎藤治雄（会員）▽テキーラ会―元メキシコ特派員、駐在員の集い（佐賀）豊島伸郎（会員）
 - 30日▽火曜会プロデューサー研修会・懇親会（新潟放）川村昭吾（会員）
 - 31日▽JCJ（日本ジャーナリスト会議）賞最終選考会（朝日）泰正流（会員）
- （会員がクラブ施設を利用して行った主な会合です。七月の総回数は一三〇回でした。）

写真部

下町情緒をいまに

写真 鍵和田 良 輔 (AFP通信東京支局)



遠く江戸時代から引き継がれている東京は浅草の下町情緒といえ、五月中旬の三社祭りのみこしと、七月十日の四万六千日の縁日にちなんだ開かれる九、十両日のホオズキ市が夏の代表格。

四万六千日は、この日浅草寺にお詣りすれば四万六千日分という途方もない大きな功德が得られるという言い伝えだが、この日にホオズキ市が立つのは、もとはといえば港区の愛宕神社の境内が始まり。ホオズキを丸のみにした者に変なご利益があったという。それが観音信仰と結びついて浅草の方が盛んになった。

みこしはいかにも初夏らしい威勢のいい行事で、近年みこしかつぎに女性の進出がめざましいが、ホオズキ市は「ことしもまた夏になったなあ」という盛夏への感慨をこめた風物詩。若い女性と子供と、風鈴に夏虫、浴衣にうちわと、庶民のやさしさ、なつかしさの源だ。これに線香花火と縁台将棋が加わると、夏の夜のもは全部そろう。ホオズキを口に含んで器用に鳴らす子供の数は減ったが、二日間で約七十万の人出だった。

こういった日本の季節ものの写真は季節感の少ない海外で意外にうけるといふ。「水打って酸漿(ホオズキ)市の出盛れる 七三郎」 (深谷憲一)

記事検索とワールドニュース

日本記者クラブもニューメディア時代へ——日本経済新聞社とNHKのご好意により、当クラブにもニューメディアが御目見えしました。

ひとつは、七月十六日に八階クラブ事務局の受付コーナーに設置した「最新ニュースと生きた経済データのオンライン情報」の「日経NEWS TELECOM」。もう一つは、翌十七日に九階ラウンジに入った「地球情報時代—世界は同時に眠らない」を売り物にする二十四時間の「NHK衛星放送」。

日経ニュース・テレコンのメニューは、ニュース速報、新聞速報、記事検索、図書・辞典・人事・企業など七項目で、事務局で操作習熟のため、当面、八階に。一方、衛星放送テレビは、テスト的にラウンジのスクリーン奥へ。15chのワールド・ニュースは午前十一時〜午後一時、同三時〜四時、同六〜八時半（および午前三時〜九時）です。ご利用下さい。

和光製のおしゃれな

クラブタイができました

会員用の新しいクラブタイができました。上等でシャレたものを、との会員のご要望にそって、今回は銀座の和光で製作いたしました。

カラー写真入りで紹介できないのが残念なのですが、紺地のレジメンタル・ストライプ、紺地に角のドットをちらしたものを、それからえんじを主調にした細かいストライプの三種類です。三種三様、全く趣きの異なるものですので、クラブゲストが記念品として三本のうちのどの柄のものを選ぶか、ますます興味深くなりました。

会員のみならずもお好みのものをぜひ一本どうぞ。また、海外取材や旅行のお土産としても、ご利用ください。9階の受付で一本七千円でお分けいたします。

クラブ行事の最新情報は

〇三—五〇三—三七六四で

七月二十七日のルクマンOPPEC議長記者会見は、急に開催が決まったために、いつものようにハガキで会員の方にご案内ができませんでした。こうした緊急の記者会見や、日時の変更なども含め、最新のクラブ行事をお知らせする「会合案内」電話があります。電話番号は、〇三—五〇三—三七六四です。こちらへお電話いただければ、いつでもクラブの行事予定すべてが分かるようになっていきます。

D 会員 特別賛助会員の方々へ

役職・住所変更をお知らせください

新しい会員名簿を作成中です。

個人D会員、特別賛助会員の方々に役職、住所、連絡先などの変更がありましたら、クラブ事務局まで至急お知らせ願います。

訃報 山崎宗次会員（毎日新聞社）が七月十四日急性心不全のため、山田浩二会員（東奥日報社）が同三十一日敗血症のため逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

八月一日現在の会員状況 法人会員 一四四社 基本会員 六一四人 個人会員 一、三五七人 法人・個人賛助会員 七六社 二三八人 特別賛助会員 七三人 名誉会員 一六人 計 二二〇社 二、二九八人

八月の行事（6日現在）

6日（木）午後2時〜3時30分 「日米関係」シリーズ（K） ジェラルド・カーチス米

コロンビア大学教授

11日（火）午後2時〜4時 研究会「超電導のフロンティア」田中昭二東京大学教授

会報委員長 深川 誠

委員 小林 利隆 三好崇一 松井 章 東郷茂彦 連絡 長谷川 河野（事務局）五〇三—二七二二

会員の著書

- 金融革命の衝撃 (ダイヤモンド社 二、三〇〇円) 鈴木敦之記
- 入門・日本経済の読み方 (日本実業出版社 二、〇〇〇円) 今 静行共著
- ザ・労働重役 (日本生産性本部 一、六〇〇円) 城山邦紀
- 警察の現在 (日本評論社 一、九〇〇円) 伊波新之助共著

※ご惠贈いただきました ヲウソジの書棚にあります